
短文集

zens

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短文集

【Nコード】

N3201E

【作者名】

zens

【あらすじ】

ふと、思いついたことを徒然なるままに筆を取り、文字として残すなり。

『花より団子』

私は、恋を知った。

私は、愛を知った。

けれど、私の心は満たされなかった。

私の心を満たすのは、1串の団子。

だって、私は腹ぺこだもの。

『真紅の彼女』

あなたは、私に言ったわ。君には赤がよく似合っつて。

その頃の私は、純粹だったから喜んだわ。

でも、別の女にも同じことを言っているって知ったの。

だから、私は言っただけだ。

あなたの赤で私を染めたいって。

『孤独な……』

透き通った青が、段々と光りなき黒へと変わっていく。

そして、私はこの黒の中で人知れず眠るのだろう。

誰か気づいてくれ、僕はここだ。

ダレカ……タスケテ……。

『私と彼女と幸せと』

透き通った風は、幸せを運ぶ。

深い緑は、私たちの心に幸せを根付かせる。

毎日2人で青い空を見上げ、星を見上げた。

たった2人だけど、私は幸せだ。

『嘘の死』

嘘によって地位を得た。

嘘によって名誉も得た。

嘘によって全てを得た。

しかし、私自身は死んでしまった。

『ある老人の日常』

私は病院へと出かけた。

そこは、近所の顔馴染のところだ。

私は最近悩ましいと思う。

佐藤さんと知らぬ名前が呼ばれ、子連れの母親が診察室へと消えていく。

一体、いつまで待てばいいのか。

1時間が経ち、ようやく私の番が巡ってきた。

医者と言う。

風邪ですね。

私も言う。

そんなことはない、もっと診てください。

ああ、いつもこうだ。

薬局へ向かう私の足取りは重かった。

『勘違い』

私が世間に認められないのは、世間が私についてこないからさ。

世間の見る目がないから、私は認められないのだ。

ああ、どこにあるのだろう。

私の理想郷は。

『夏の雪』

夏に雪が降るなんて。

人々は驚きを隠さない。

ねえ、すごいねと小さい男の子が私に言った。

私は、珍しいねと返事をする。

しかし、私は驚きもしない。

あの日も・・・。

そう、妻と結婚したあの日も・・・雪が降っていたのだから。

『かたる』

賢者は語る。

人のために生きよ、と。

愚者は騙る。

欲のために生きよ、と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3201e/>

短文集

2011年1月22日12時51分発行